

現代中国語における動趨式の一否定形式“走不进去”

中 根 綾 子*

現代汉语动趋式的一种否定形式“走不进去”

中 根 綾 子

提要

現代汉语有一种称作可能补语或补语的可能式的谓语形式，一般说明是由“得／不”字加动结式或动趋式构成的，意思表示可能性。本文对其中有关动趋式（“Vxy”）的可能补语的否定形式（“V不xy”）进行研究。有些现有的研究指出“得／不”字是表示可能性的助词，本文并不同意，而把“不”字看作一般的否定词，认为“V不xy”是动趋式的一种否定形式，进而从新的角度对“V不xy”的语法意义进行探讨。得出的结论如下：“V不xy”表示动作在现有的情况或条件下即使发生也不会实现（动作的不成立），用这样的说法来描写实际存在的状态。最后，“V不xy”和“能／不能”做比较，藉此强调“V不xy”的语法意义和“能／不能”的语法意义截然不同，“V不xy”不表示可能性。

关键词：动趋式、可能补语、否定、能愿动词“能”

1. はじめに

現代中国語には可能補語もしくは補語の可能式と呼ばれる述語形式がある。この形式は動結式あるいは動趨式に“得／不”を加えて形成され、一般に可能性を表すと説明される。

- 1) 吃得完（食べ終わることができる¹⁾）／吃不完（食べ終わることができない）
- 2) 走得进去（歩いて入れる）／走不进去（歩いて入れない）

可能性を表す表現には、別に助動詞の“能／不能”もあるため、本形式はそれとの対照において論じられることも多い。

本論は、本形式のなかでも特に動趨式（以下総称して「Vxy」という）にかかわる否定形式（“走不进去”）（以下総称して「V不xy」という）について考察するものである。

論を進めるにあたり、最初に“V不xy”を形態的に特徴付けている“不”の解釈について、本論の基本的立場を述べておきたい。“V得／不C”（Cは補語）の表す可能義は構造上のどの成分が表しているかという問題について、それは“得／不”であるとする説がある。しかし、吳福祥2002はそれに意義を唱え、可能義は構文が表す意味であって、ある個別成分が表しているのではないと主張する。そして、“不”は“V不C”においても典型的な否定を表す副詞であると述べる²⁾。本論はこれを支持し、“V不xy”の“不”を通常の否定詞と考え、これを議論の出発点としたい。そして、“V不xy”について一般にいわれる可能補語または補語の可能式という枠組みを離れ、これを動趨式におけるひとつの否定形式と考えることにより、新たな観点から“V不xy”の表す本質の意味についての説明を試みる。

動趨式は次に挙げる二つの否定形式を有する³⁾。

キーワード：動趨式、可能補語、否定、助動詞“能”

*平成17年度生 比較社会文化学専攻

3) 他走不进去。(“V 不 xy”) (彼は (中に) 入れない。)

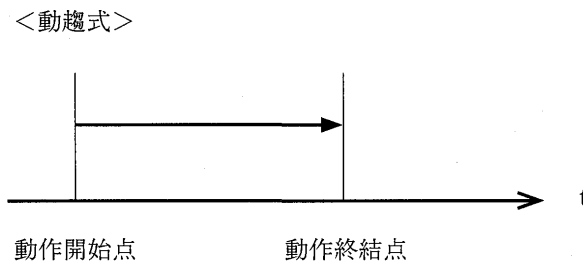
4) 他没走进去。(“没 Vxy”) (彼は (中に) 入らなかった。)

両者は、否定詞“不”および“没”の使用選択と、その文法位置の相違という二つの点において特徴的である。両者は形式上固定した表現であり、たとえば“*不走进去”“*走没进去”は許容されない。このことは、一般動詞においては“不”と“没”がともに前置することとは大きく異なる(“我不吃饭。”/“我没吃饭。”)。また“V 不 xy”のように、平叙文において否定詞が述語構造の中間に位置することは、動結式以外には動趨式のみ許される現象であり、その他の語や述語構造はこのような形式を持たない(“*扩不大”“*吃不饭”“*走不一趟”“*走不一个小时”)。このように“V 不 xy”は文法上特異な存在であって、この特異性は他でもない動趨式が表す本質的意味に起因する。

以下、動趨式の表す本質的意味を確認し、それに基づき、否定詞の使用選択と文法位置の観点から、“V 不 xy”について、“没 Vxy”と比較対照しながら考察する。

2. 動趨式の本質的意味

中根 2005 は、動趨式の本質的意味について、「動作の開始点からある一定の時間量を経過して終結点にいたるまでの展開過程を有する「動作」を表す」と述べる。



本論において、動作とはこの意味を表すものとする。

動趨式は内在的に開始点と終結点を含む動作を表し、動作は一旦開始点を過ぎると、必然的にその終結点に向かって進行し、そこに到達してはじめてひとつの動作として成立し実現する。このように動趨式の表す動作は時間軸上終結点(限界性)を有する線状の形を成し、この形を整えることが動作成立の要件となる。よって、動作は開始点を過ぎなければ当然発生せず成立もしないが、特徴的なのは、たとえ開始点を過ぎても終結点に達しなければやはり動作として成立しないという点である。

3. 否定詞“不”と“没”

否定詞“不”と“没”の使用選択の根拠となるその表す意味と、文法位置に起因する否定の作用領域について確認する。

3.1 “不”と“没”の意味

木村 1997 は、“没”は専ら既然の動態性事態を否定する「相(アスペクト)否定詞」であり、“不”は主語に対してその述語によって表される叙述が成立しないことを表す「論理否定詞」であると定義する。“不”は“没”が用いられる以外のすべての場合、すなわち非既然の動態性事態および非動態性事態(状態、属性)の否定に用いられ、アスペクト的要素は含まないという。“没”による否定は、動態性事態が現実世界において生起しなかったことを示し、時間軸上事態が未発生であることをいう。一方、“不”は、事態が既然か否かということとは無関係に、S(主部) = P(述部)という関係が成立しないことをいう。

したがい、動態性事態に対する否定は、想定される肯定形によって表される事態が既然か否かを根拠として、

“不”と“没”が使い分けられることになる。

5) 小王今天晚上不吃饭。(小王は今晚ご飯を食べない。)(~8) 木村 1997)

6) 小王今天早上没吃饭。(小王は今朝ご飯を食べなかった。)

また、全ての静態性事態は“不”により否定される。

7) 外边不冷。(外は寒くない。)

8) 小王不老实。(小王は真面目ではない。)

このように“不”と“没”で表される否定の意味は大きく異なる。

3.2 否定の作用領域

呂叔湘 1990 は、文における“没”もしくは“不”の否定の範囲は、“没”もしくは“不”から後ろの全ての句や語であるという。また劉丹青 2005 は、歴史的にも地域方言を見ても、否定詞は常に前置的であり、後方否定にのみ用いられるという。

したがい、文における否定詞の位置がその表す意味との関連で重要となる。否定詞の位置の相違により生じる意味の相違の問題は次のような文においてしばしば取り上げられる。

9) 他不₁在家里吃饭。(彼は家で食事をしない。)

10) 他在家里不₂吃饭。(彼は家では食事をしない。)

4. “没 Vxy”一事態発生の否定 (事態の未発生)

4.1 “没 Vxy”の本質的意味

動趨式のアクチュアルな否定は“没 Vxy”である。既然の動態性事態を否定する場合には、専らアスペクト否定詞“没”が用いられる。“没”は、後接する“Vxy”もしくは“Vxy”を含む句全体をその作用領域とする。

11) 她的嘴唇微微动着，但是并没有说出什么。(彼女の唇は微かに動いてはいるが、しかし何も言わなかった。)(巴金《家》)

12) 天黑不久，月亮还没有升上来，好像把一切都扔进黑染缸里了。(空が暗くなってほどなく、月はまだ昇っていない。)(浩然《金光大道》)

13) 流苏突然被得罪了，站起身来往旅馆里走。柳原这一次并没有跟上来。(柳原は今度は追ってこなかった。)(张爱玲《倾城之恋》)

これらの例における“没”は“Vxy”を作用領域とし、動作が開始点を過ぎず、終結点にも到達しなかったこと、すなわち現実世界において動作が発生も、実現もしなかったということ、そしてそのような事態が時間軸において未発生であると確認されたという意味を表す。

次に、“没”が“Vxy”を含む句全体を作用領域とする例を見る。

14) 道静也高兴起来。但她的高兴与其说是因为斗争的胜利，还不如说是因为看见他们平安回来了更合适。不过，她没有把她心里的话说出来。(しかし彼女は心の内は話さなかった。)(杨沫《青春之歌》)

15) 他们共同生活十几年来，陆文婷虽然天天到医院上班，可从来没有自己提出来去医院看病。(今まで自分から言い出して病院へ行くことはなかった。)(谌容《人到中年》)

これらの例における否定の作用の及ぶ対象は、例 14) は“把她心里的话说出来”、例 15) は“自己提出来去医院看病”であり、そのような事態が発生しなかったということを確認して述べるものである。

“没 Vxy”は句レベルの否定であり、その本質的意味は事態発生の否定 (事態の未発生) である。

4.2 “没 Vxy”の語用論的意味

“没 Vxy”の本質的意味は事態の未発生であるが、一方で、「事態は発生した(行おうとした)が実現には至らなかった」という意味を表す例も見られる。

16) 维娜也很感兴趣地凑过来，从谭静手里接过舞鞋，穿了两下没穿下去。“不行，不行，我的脚也穿不下。”(谭静の手から舞台シューズを受け取り、ちょっと履いてみたが履けなかった。)(张海迪《轮椅》)

椅上的梦》)

17) 道静想说什么, 但是心脏跳得厉害, 什么也没说出来。(道静は何か言おうとしたが、心臓があまりにもどきどきして、何も言えなかった。) (杨沫《青春之歌》)

例 16) は、靴を履く動作は発生したが、履けなかったのであるから、“没穿下去”の“没”が否定しているのは“穿下去”ではなく“下去”であると考えられ、ならばこれは事態の未発生という意味に反している。

しかしこれは、田窪 2005 でいう否定のスコープと否定の焦点という観点から矛盾なく説明することができる。田窪 2005 は、否定のスコープは否定辞を一項述語とした場合のその同位要素であり、否定の焦点はスコープ内で選択的に否定されている部分であるという。両者は異なるレベルの概念であり、混同してはならない。“没 Vxy”についていえば、否定のスコープは“Vxy”で、スコープ内の“V”“xy”“Vxy”のいずれかを文脈に応じて選択し否定の焦点と成す⁴⁾。したがって、例 16) の“没穿下去”の場合、否定のスコープは“穿下去”、否定の焦点は“下去”となる。“下去”は否定のスコープではない。よって、このような現象はまさに語用論において考えるべきものであって、問題の次元は異なる。

さらに、スコープ内における否定の焦点の選択について、“没 Vxy”では候補となる成分間で同等には行われない。なぜなら、補語“xy”については、専らこれを否定のスコープとする“V不xy”が別にあるからである。用例を探すと、“没 Vxy”が例 16) 17) のように否定の焦点を“xy”とするものは比較的少なく、しかも多くは、「動作を行った／行おうとした」(“穿了两下”／“想说什么”)が、「実現しなかった」(“没穿下去”“没说出来”)というように、動作発生や動作遂行の意志を明示する句との共起パターンで現れており、このような文脈の支えなしで、単独で否定の焦点を“xy”とする“没 Vxy”の例は多くなかった。そして、このような“没 Vxy”は“V不xy”に置き換えられる場合が多い。したがって、“xy”を否定の焦点とするのは原則的には“V不xy”が担い、“没 Vxy”が“xy”を否定の焦点とする例は、極めて語用論的性格の強いものであると判断する。

以上の考察から、“没 Vxy”の本質的意味を事態の未発生とすることに矛盾は生じない。

5. “V不xy” — 動作成立の否定 (動作の不成立)

5.1 “V不xy”における否定の意味

18) 我们一下子运不出那么多矿石。(私たちはいっぺんにそんなに多くの鉱石を運び出せない。)(~
19) 吕叔湘 2002)

19) 别担心, 水洒不出去。(心配するな、水はこぼれないから。)

“V不xy”の“不”の作用領域は補語である方向動詞“xy”である。“不”は“Vxy”という動作全体を否定するのではなく補語“xy”のみを否定し、またその作用領域は語の内に留まり、決して句を作用領域に収めるものではない⁵⁾。したがって、“V不xy”の“不”の否定の対象は動作であって事態ではない。“没 Vxy”が句レベルの否定であるのに対し、“V不xy”は語彙レベルの否定である。

“不”が“xy”を否定するとはどういうことか。はじめに方向動詞“xy”の補語としての機能を確認しよう。たとえば“走进去”は、主要動詞“走”と補語“进去”から成る。“走”は内在的に動作の開始点のみを有し、動作の終結点を含まないが、“进去”は“走”の補語となって、“走”に動作の終結点(限界性)を与える機能を果たす(沈家煊 1995、张伯江 1991)。ゆえに、“Vxy”において論理否定詞である“不”で補語“xy”を否定するということは、“V”(動作開始点) = “xy”(動作終結点)という関係が成立しない、すなわち動作はその開始点を過ぎてても想定される終結点には到達しないという意味を表すこととなる⁶⁾。

“Vxy”の表す動作は時間軸上常に終結点を有する線状となって現れ、開始点を過ぎた後、終結点に到達して初めてひとつの動作として成立するものであった。したがって、動作はたとえ開始点を過ぎたとしても終結点に到達しないのであれば、ひとつの動作として成立することはできず、ゆえに現実世界には実現しない。つまり、“V不xy”は、動作が発生したか否かは不問にし、動作は「仮に発生したとしても実現には至らない」(動作の不成立)という意味を表す。

20) 这间房间, 很多人挡在门口, 我走不进去。(この部屋は、入り口にたくさんの人がいて、入れない。)

21) 这本书太大, 掏不出来。(この本は大きすぎて出てこない。)

例 20) は、入るという動作が、仮に発生したとしても中に入った状態までには至らず、動作は実現には至らない、すなわち「入れない」という意味である。例 21) は、取り出すという動作が、仮に発生したとしても本が出た状態までには至らず、本は「出てこない」という意味である。

“V 不 xy” は、動作は「仮に発生したとしても実現には至らない」という意味であり、動作は「発生したが実現しなかった」という意味を表すものではない。もし、“V 不 xy” がこのような既然の動態性事態の否定であるならば、文法規則に従い否定詞は“没”が選択され、“*V 没 xy” といわねばならないであろう。このように否定詞の使用に“不”が選択されたということは、“V 不 xy” は既然の動態性事態の否定ではないが、文脈において、動作の発生や動作者の意志を表す表現と共に用いることで、全体として動作は「発生した（行おうとした）が、実現には至らない」という意味を表すことができる。“V 不 xy” は実際に動作が発生したか否かは不問とするので、事実において動作は発生していてもよいし、発生していなくてもよい。そこで、発生した（行おうとした）ということを用いて文脈で補うことが可能となり、このパターンはしばしば登場する。

- 22) 奶奶极力想抬起手臂，爱抚一下我父亲的脸，手臂却怎么也抬不起来了。（祖母は懸命に腕を上げて父の顔を撫でようとしたが、なぜか腕はどうやっても上がらなくなっていた。）（莫言《红高粱》）
- 23) 咦？不知为什么扎不动？她把浑身的力气都凝聚到了手指上，扎了几下，还是扎不进去。（彼女は渾身の力を指に集中して何度か（針を）刺したが、やはり刺さらない。）（谌容《人到中年》）
- 24) 觉慧并不回答，默默地择了一根细小的观音竹，用力去拔它，拔不起来，便把它折断了，（黙ったまま細い観音竹を選んで力いっぱい抜こうとしたが、抜けない。）（巴金《家》）

5.2 “V 不 xy” の静態性と場面依存性

“V 不 xy” は“不”を用いた否定表現であり、動作が動作として成立しないことを意味するのであれば、それは動態性事態ではなく、非動態性事態すなわち静態性事態を表すということである⁷⁾。このことは、以下の文法現象からも明らかである。

“V 不 xy” は、専ら動態性事態を叙述する“把”構文においては用いることができない。

- 25) *我把那本书掏不出来。

“V 不 xy” は、動作者の心情や態度、動作についての描写性状語の修飾を受けることができない（刘月华 1992）。

- 26) *他在哪里呢？他自己也正确地回答不出。（刘月华 1992）

それでは、“V 不 xy” の表す静態性事態とは、時間軸とは無関係に事物の恒久的性質を表す「属性」か、あるいは時間軸を背景とするが時間に沿って展開しない「状態」か⁸⁾。“V 不 xy” は「状態」を表す。用例を見ながら具体的に説明しよう。

- 27) 就连平常手术台上下来，踏进家门，精疲力尽，做饭连手都抬不起来！（精も根も尽き果てて、ご飯を作ろうにも手さえ上がらない！）（谌容《人到中年》）
- 28) 我们是一个解放区里来的。你的资格和水平都与我差不多。可就是因为思想右倾，你一直升不上去。（君の資格と能力は私と大差ない。ただ、思想が右寄りだから、君はずっと昇進できないんだ。）（戴厚英《人啊，人》）
- 29) 到了棋场，竟有数千人围住，土扬在半空，许久落不下来，棋场的标语标志早已摘除，出来一个人，见这么多人，脸都白了。（土埃は宙に舞い、長いこと落ちてこない。）（阿城《棋王》）

例 27) は、自分は身体能力的には手を上げる動作はできる。しかし今この精も根も尽き果てたという状況下では、手を上げようとしても上に上がるまでには至らず、手は「上がらない」状態であるということを表す。例 28) は、君は本来的には資格や能力の面で自分と大差ないので、当然昇進できる条件を有している。しかし、君の思想が右寄りであるという事実の下では、君が昇進するということは実現せず、君は「昇進できない」状態であるということを表す。ここで重要なのは、前述の傍点部分である。つまり、「動作の不成立」とは、今この現実世界に現れている状況においては、動作は「仮に発生したとしても実現には至らない」という意味であり、場面に強く依存した表現なのである。その意味において、“V 不 xy” の描写する状態は個別具体的であり限定的である。たとえば例 27) においては、精も根も尽き果てるほど疲れているという状況を取り除けば、手は上がるだろうし、例 28) は、思想が右寄りであることを正せば、君は昇進できるだろう。

このように“V不xy”は、場面における「状態」を描写する表現であるので、動作者の存在や動作者の意志という動態的観点は馴染まない。“V不xy”は、事態を動作者に注目して捉えるのではなく全体的に捉え、その状況においては動作が実現しないといういい方で、現実世界のある場面において発現している「状態」をまるごと描写して語る形式なのである。言い換えれば、動態的要素も織り込んで事態全体をひとつの画面として構成し叙述する表現であるということである。例29)を見ると、“V不xy”が動態性事態の叙述ではなく、状態描写であることは容易に理解できる。もう少し例を補充する。

- 30) 半夜三更, 下着大雪, 还刮着风, 路上一个行人也没有。我又冷, 又怕, 又困, 心里真难过, 想大声哭, 可是也哭不出来。(寒いし、怖いし、くたくたで、あまりの辛さに、大声で泣きたいけど、泣けない。)(杨沫《青春之歌》)
- 31) 半年之后他的小腿骨愈合了, 但是两条腿的肌肉已经同时萎缩, 他站也站不起来了……(しかし両足の筋肉がすでに萎縮して、立とうにも立てなくなっていた……)(王蒙《活动变人形》)
- 32) 登上旋转的楼梯, 向右手那间舞厅走去, 周围的窗户全给黑布遮上, 一丝阳光也透不进来, (周囲の窓は全て黒い布で覆われて、一筋の日の光もささない。)(周而复《上海的早晨(上)》)
- 33) 渴了, 喝自己军用水壶里的水。或从哪儿讨点水。若军用水壶里的水冻实了, 倒不出来, 一时也讨不到水, 赛嘴里一把雪一块冰就算喝水解渴了。(もし軍用の水筒の水が凍ってしまっていて、出てこなかったら、当分の間水は手に入らない。)(梁晓声《泯灭》)

例30)は、私は泣く行為を行う意志を持っているが、寒いし、怖いし、くたくたで、あまりにも辛いという状況の下では、泣く動作は実現せず、私は「泣けない」状態であるという意味である。私が泣けないのは、私の身体的能力において泣く動作自体ができないからではなく、泣く動作を行う能力は有しているが、この状況においては、泣こうにも「泣けない」状態なのである。例31)は、彼は本来の身体能力において立つ動作自体ができないのではなく、両足の筋肉が萎縮している状況では、腰を上げるなどして立つ動作を行っても直立するまでには至らず「立てない」状態であることを意味している。例32)は、部屋の窓は通常であれば日の光が差してくるが、全ての窓が黒い布で覆われてしまった状況では、一筋の光さえ「入らない」状態であるという意味である。例33)は、水筒に入っている水は当然出して飲むためのものであるが、もし凍ってしまうと水はどうにも「出てこない」状態となるという意味である。

5.3 “V不xy”の本質的意味

“V不xy”の本質的意味は、動作が、場面の表す状況や条件においては、仮に発生したとしても実現には至らない(動作の不成立)ということであり、以って現実世界のある場面における状態を描写するものである。

6. “V不xy”と「可能性」

従来の多数説は、“V不xy”を「可能性」(不可能)を表すと説明してきた。しかし、この「可能性」とは何かという概念規定が不明瞭なため、専ら「可能性」を表す助動詞“能/不能”との関係において、両者は言語事実においては明らかに使用場面が異なるにもかかわらず、意味の上ではその棲み分けが困難であるという事態が生じている。

6.1 「可能性」の意味

魯晓琨 2001 に次のような記載がある。「X“能”Y」(Xは名詞、Yは事態を表す述詞句)の表す「可能性」の中心的意味は、「XにはXがYを実現できるあるいはYに達成できる条件が備わっていること」である。本論はこれを支持し、「可能性」の定義とする。噛み砕いていうならば、「可能性」とは、人や物がある動態性事態を実現できる条件を備えているか否かということであり、その条件を備えている場合は事態は意図すれば現実世界において実現し、条件を備えていない場合は事態は意図しても現実世界には実現しない。つまり、「可能性」とは、人や物に注目して、その個体がある能力や条件を有するか否かを述べる非現実世界のモダリティにかかわる概念である。そしてこれを代表する言語表現が助動詞“能/不能”である。

34) 他一分钟能打一百个字。(彼は一分間に百字打てる。)

35) 橘子皮能做药。(みかんの皮は薬になる。)(吕叔湘 2002)

例 34) は、彼は一分間に百字打つ能力を持ち、実際に意図すればいつでもそれを行うことができるという意味を表す。例 35) は、みかんの皮は薬としての効用を持ち、実際に用いればいつでも薬となるという意味を表す。

6.2 “能/不能”と“V不xy”

「可能性」を前節のように定義するならば、“V不xy”の表す本質的意味と「可能性」とは相容れない。“能/不能”と“V不xy”は、意味上「非現実(モダリティ)」対「現実」、「動態」対「非動態(静態)」、「個体中心的事態把握」対「場面全体的事態把握」という対立関係にあり、“V不xy”を“能/不能”の表す「可能性」のカテゴリに入れて同列に扱うことは難しい。

“不能”と“V不xy”の関係については、刘月华 1992が重要な指摘をしている。すなわち、大多数の“V不C”は“不能VC”に変換することができず、できたとしてもそれは不許可もしくは道理上不許可の意味となってしまう、不可能を表す場合は多くないということである⁹⁾。このように、言語事実においては、“不能Vxy”は大概の場合「可能性」の意味を表さないのであるから、そもそも“不能”と“V不xy”を比較することの意義はあまり感じられない。しかし、「可能性」という意味との関連においては、“能/不能”と“V不xy”の本質的意味の違いを明らかにすることは必要であろう。このような観点から、“能/不能”と“V不xy”の具体例を比較する。

36) 我刚开始学打字，一分钟还不能打二十个字。(私は字を打つのは習ったばかりで、まだ一分間に二十字も打てない。)

37) 这台打字机好像坏了，要打的字，都打不出来。(このワープロは壊れてしまったようだ、字を打とうとしても打てない。)

例 36) は、私はまだ一分間に二十字打てる能力はなく、ゆえにそれは実際にやってみてもできないという意味である。例 37) は、自身はワープロを打つ能力は持っているが、ワープロが壊れているという状況下では、字を打っても出てこない状態であることを意味している。

38) 象小木笼里一只大兔子，眼睛红红的看着外边，看着里边，空有能飞跑的腿，跑不出去!(いたずらに跳ねたり走ったりできる足を持っているだけで、外へは逃げられない!)(老舍《骆驼祥子》)

例 38) は、彼は走るという運動能力は備わっているのが通常であれば意図すれば自由に走ってどこへでも行ける。しかし、檻の中に閉じ込められた状況では、走る行為をしても、外へ出るまでには至らず出られない状態にあるという意味である。“能飞跑”は動態性事態の実現に関する能力を表すモダリティ表現、“跑不出去”は現実世界に現れている静態性事態(状態)の描写表現である。

さらに、両者で用いられている“不”の機能は異なる。“V不xy”は語彙レベルの否定であったが、“不能”の“不”の作用領域は、“能”以下の句全体であり、句レベルの否定である。したがって、動態性事態にかかわる否定の場合は“不能”を用いる。下例において、“进不去看电影”を“不能进去看电影”に置き換えると、文として成立する。

39) *我没有票，进不去看电影。(刘月华 1992)

40) 我没有票，不能进去看电影。

6.3 「可能性」と「動作の不成立」の意味関係

これまでの考察から、“V不xy”は「可能性」を表さないということがわかったが、文における事態の捉え方を少し変えてみると、「動作の不成立」と「可能性」は意味上近い関係にあることがうかがえる。

41) 我得了关节炎，右胳膊有点儿抬不起来。(関節炎で、右腕があまり上がらない。)(吕叔湘 2002)

本例は、私は関節炎を患っている状況下では、右腕は上げようとしても上がらない状態であるという、現実世界の静態性事態描写文である。話し手は場面を全体的に捉え、右腕の様子に関心を寄せて描写している。しかしこの事態を、動作者に注目し、私による動態性事態として捉えるとどうだろうか。「私は関節炎が原因で、右腕を上げるといふ動作行為を実現するために必要な条件が整っていない(私は右手を上げられない)」と解釈しても、事実とそう違いはないように思われる。

このように「可能性」と「動作の不成立」とは意味上近接している。このことが両者を混同する原因のひとつであるが、現代中国語においては、事態の捉え方という観点から両者の意味を厳然と区別し、おのおの異なる文法形式を成立させている。しかも、“不能 Vxy”と“V 不 xy”は話し手の裁量により選択的に用いられるのではなく、おのおのの使用場面は決まっており、両者は互換不可能であるならば、それらを同一の意味カテゴリに押し込めるには無理がある。やはり、「可能性」を前述のように定義した上で、“V 不 xy”は「可能性」と決別すべきであろう。このようにすれば、“V 不 xy”と“能／不能”を、文法論的にも意味論的にも別個のものとして扱うことができる。

最後に、「不可能」を表す“不能 Vxy”の例を挙げておく。

42) 看来, 我们的关系不能这么暧昧地拖下去了。(思うに、私たちの関係はこんな曖昧にずるずる引き延ばすことはできない。)(王朔《一半是火焰, 一半是海水》)

43) 下山的路上, 她不理我了。就连我说出“你说得对, 谁也不能千年万世活下去。”(誰だって千年も万年も生き続けることはできないよ。)(王朔《一半是火焰, 一半是海水》)

例 42) は話し手の判断、例 43) は一般的真理について述べるもので、ともに動態性事態にかかわる非現実文である。ゆえに“V 不 xy”ではなく“不能 Vxy”が用いられる。

7. おわりに

否定形“V 不 R”(Rは補語)に対応する肯定形は“VR”か、それとも“V 得 R”かという議論がある。吳福祥 2002 は、“V 不 R”の肯定形は“VR”であると主張する。劉丹青 2005 にも同様の主張がある。杉村 1992b は、肯定形を“VR”とみなすことに一定の支持を表明しながらも、一方で両者の構文論的性質が異なることを理由に、“V 得 R”が肯定形であると考えられる可能性を否定しない。

本論がこれまで考察してきた否定の観点から見ると、“V 不 xy”の肯定形を“Vxy”とみなすことは難しい。なぜなら、否定とは事前に仮設した対応する肯定命題に否定を加えるもの(沈家煊 1999)であるため、“V 不 xy”が静態を表すのであれば、命題“Vxy”も静態でなければならないからである。この問題については、“V 得 xy”も含めて改めて考える必要があるだろう。

ひとまず本論の結論からいえることは、“V 不 xy”は語彙レベルの否定であり否定詞は通常の機能と異なること、否定義を越えた独自の文法的意味を持つこと、さらにその歴史的由来²⁾などを合わせて鑑みると、“V 不 xy”は否定の形式をとりながらも新しい意味を創出しており、独立したカテゴリを形成していると考えられることも十分に可能であるということである。

注

- 1) 本論文における例文の日本語訳はすべて筆者による。文が長いものは、論証にかかわる下線部のみ訳出する。
- 2) 吳福祥 2002 は、歴史的観点から可能補語を考察し、可能性を表す“V 得／不 C”は実現性を表す“V 得／不 C”が特定の文脈に置かれて派生してできたある種の“语境义”を体現したものであり、実現性を表す“V 得／不 C”が唐宋以降次第に文脈の支えから離れ、可能性を表す固定形式へと文法化したと述べる。そして実現性を表す動補構造“V 不 C”は、主述構造である“V (O) 不 Vi”(Viは単音節動詞)(“学书不成”)を再分析して得られたもので、この“不”は否定詞であることから、可能性を表す“V 不 C”の“不”も否定詞であるとする。
- 3) 動趨式はその全てがここに挙げる二つの否定形式を持つわけではなく、なかには“V 不 xy”を持たないものもあるが、それについては本論では触れない。
- 4) 否定辞の同位要素が“Vxy”だけでなく、“Vxy”を含む句である場合には、否定のスコープは句全体となり、否定の焦点の候補となる成分はさらに複数となる。たとえば、例 14) の否定の焦点は“她心里的话”であり、例 15) の否定の焦点は“自己”である。
- 5) 杉村 1992b は、“*他病刚好, 出不去散步。”という非文を挙げ、「可能補語の否定形には述部全体を否定の作用域に収めるだけの力が備わっていない」と述べる。劉丹青 2005 は、“V 不 R”の“不”は R に付加されたものであるという。さらに、いわゆる単純方向補語である“V 不 x”の場合、一見語彙レベルの否定ではなく、目的語を有する句レベルの否定であるように見える(例 18) 我们一下子运不出那么多矿石。)。しかし、“Vx”は目的語なしで単独で成立することはできず、また目的語は“Vx”と一体となってその移

動の参照点として機能する不可分の成分である(中根 2005) ため、本論はこれを句構造とみなさず、「Vx + 目的語」でひとつの語相当とみなす。

- 6) 杉村 1992a は、「V 得/不 R」は“把”構文や“被”構文で用いることができないことから、非完結性の性格を備えると述べる。杉村 1992b は、「可能補語とは結果の肯定であり、また否定である」と述べる。
- 7) 杉村 1992a は、「V 得/不 R」は意味においても機能においても形容詞に近いと述べる。杉村 1992b は、“VR”と“V 得 R”について、「変化対状態」というアスペクト的対立を形成していると述べる。
- 8) 「属性」と「状態」の概念については木村 1997 参照。
- 9) 刘月华 1992 は、精密な統計の結果、「V 得/不 C」および“能/不能 VC”について、肯定の場合は“V 得 C”より“能 VC”が多く用いられ、否定の場合は“不能 VC”より“V 不 C”が多く用いられるという。

参考文献

- 杉村博文 1992b. 「可能補語の考え方」, 大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集』。東京: くろしお出版。
- 田窪行則 2005. 「中国語の否定: 否定のスコープと焦点」, 『中国語学』252。
- 中根綾子 2005. 「動趨式の表す本質的意味-動結式との対照から」, 『中国語学』252。
- 木村英樹 1997. 「'変化' 和 '動作'」, 『橋本萬太郎記念中国語学論集』。東京: 内山書店。
- 杉村博文 1992a. 「V 得 C、不能 C、能 V 得 C」, 『現代汉语补语研究资料』。北京: 北京语言学院出版社。
- 刘丹青 2005. 「汉语否定词形态句法类型的方言比较」, 『中国語学』252。
- 刘月华 1992. 「可能补语用法的研究」, 『现代汉语补语研究资料』。北京: 北京语言学院出版社。
- 吕叔湘 1990. 「疑问・否定・肯定」, 『吕叔湘文集』。北京: 商务印书馆。
- 吕叔湘 2002. 「现代汉语八百词(增订本)」。北京: 商务印书馆。
- 鲁晓琨 2001. 「助动词“能”的语义构成及其肯否不对称现象」, 『现代中国語研究』2001 年第 3 期。
- 沈家煊 1995. 「“有界”与“无界”」, 『中国语文』1995 年第 5 期。
- 沈家煊 1999. 『不对称和标记论』。南昌: 江西教育出版社。
- 吴福祥 2002. 「能性述补结构琐议」, 『语言教学与研究』2002 年第 5 期。
- 张伯江 1991. 「关于动趋式带宾语的几种语序」, 『中国语文』1991 年第 3 期。

(2006 年 1 月 10 日受理)